あって良かったと思えるお寺に！

御年９１歳、上原秦教先生のご法話の様子

専明寺 みちしるべ

平成31年度
春号

住所：下松市藤光町２－１４－５
TEL：0833-41-3667　FAX：0833-41-5081
ＨＰ：「専明寺」で検索！！写真や法話を更新中

法座案内

降誕会（ごうたんえ）

降誕会とは、宗祖親鸞聖人の御誕生を祝う法要です。この度の御講師は、遠石にある和光保育園の園長で布教使の先生でもある御園生先生です。

五月二十六日（日）
十時半～十二時まで（一時間半程度）
講師：御園生宣尚　先生

法座の後は、カレー&餅つき大会

お昼には一緒にカレーを食べて、餅つきを行います。門徒に限らないので、学校の友達も誘ってご参加ください。餅つきは子ども参加型なので喜びます。新一年生と初めて法座に参加される小学生には、お念珠をプレゼント、事前にご連絡ください。石うすにきねでつく昔ながらの餅つきです。子どもや孫に、そんな体験をさせてみませんか。大人も楽しめます。

永代経のご案内

六月八日（土）昼席十三時半～十五時半
夜席十九時半～二十一時

今年も夜席では、沈む夕日を眺めてミニコンサートを行います。
詳しくは3頁をご覧ください

お話

・リビングウィル
・アドバンス・ケア・プランニング

日頃聞き慣れない言葉ですが、知っている人がいるとすれば、医療関係者か終活をしっかりとされている方ではないでしょうか。

長寿社会の中で、女性の平均寿命は八十七歳となりました。長生きする事で今まで考えなかったような苦しみも出てきました。

それが「延命処置」の問題です。胃ろうや人工呼吸器など、今までは自然の摂理の中で、食べられなくなったら、自力で呼吸出来なくなったら終わりだったのが、今では本人または本人の意識がなければ家族の判断に委ねられるようになりました。

延命措置を望みますか？と色んな方に聞いてみても、希望する人はあまりいません。みな「自然に」と口を揃えて言われますが、なかなか自然に逝けないのが現実です。

そこでリビングウィルという制度です。これは日本尊厳死協会が推進する活動で、「いのちの遺言」、「生前意思」とも言います。しっかりと意思表示しておくことが、後々に自分が苦しい思いをしなくて済む最善の方法と思います。またアドバンス・ケア・プランニングとは、自分が終末期にどのように過ごすのか、医療・地域・家族が話し合い、ケアプランを個別のオーダーメイドで作っていくことです。

避けては通れない道だからこそ、自分でしっかりと決めておく必要があります。そして、やがて自分が先立つ時に、残されたものが負担にならないようにお寺のことを少しづつ伝えていきましょう。ご相談はお寺でも承ります。

活動写真

美祢・萩から門徒推進委員の皆様がお寺見学兼研修にこられました。

門徒のみんなで協力して、りんごを収穫していきます。

壮年会主催のりんご狩り＆BBQ in 徳佐！！沢山の方が参加されました

１２月３１日。除夜会を行い、梵鐘をつきました。

最多数参加の長田さん家族。中学生になって食べる量も倍増です。お肉は皇牛でした。

会長の山﨑さんご家族もみなさんで参加されました。

お朝事の会

四月二十七日
五月二十五日
六月二十九日
八時～十時まで

毎月最終土曜日は、お寺で正信偈をお勤めします。一緒に読経した後には、境内の掃除を四十分ほどして皆さんとお粥を頂きます。朝から一緒に身体を動かして、お粥を食べましょう。服装も動きやすい服装で来てください。

美護り隊

毎月第二土曜日八時から、本堂の掃除機をかけたり一時ほど境内の掃除をして、**茶話会をします**。

雑談をいつも三十分くらいはしています。気兼ねなくお越しください。

御文章の勉強会

五月十九日（土）
十四時～
十五時十分迄

法話の終わりに講師の先生が蓮如上人の御文章を拝読されて「あなかしこ　あなかしこ」と終わります。その文書の中身をわかりやすく行く解説していきます。初回のみ資料代千円です。

一年間計十回を予定しています。

永代経

六月八日（土）
講師：当山住職

永代経法要とは、悲しい葬儀を縁として門徒が行う行事です。拝読するお経には、実は老病死を越えて生ききれる教えが説かれています。これを親から子へ、子から孫へと伝える大切な法要です。墓地・納骨堂がある方はご参加ください。沈む夕日を愛でながら、二胡の音色をお楽しみください。

５回くらい餅をつきました。今度は５月降誕会の時です。

春のお彼岸の様子。総代をはじめ、多くのご門徒でいっぱいです。

１６時に鐘つきをスタートしましたが、１０８を超えて日が暮れても参拝がありました。

専明寺ライトアップ。彼岸・盆・年末年始限定。どうぞご家族・友人とごゆっくり御覧ください。

昨年１１月の報恩講。餅つきの準備風景。

一番最後の梵鐘をついてくれたのは、写真を提供してくださる武居さん一家です。

仏教壮年会

人生の節目に還暦式

二月十一日、下松市西教寺様を会場にして、仏教壮年会の連絡協議会と懇話会が開催されました。

「お寺参りを増やすには？」をテーマに四グループに分かれて、活発な討議がなされながら、各お寺の交流がはかられました。

私の参加したグループには、浄蓮寺のご門徒さんがおられ、「昔お寺で開催された還暦式がきっかけでお寺に関わるようになりました。当時、まだ仕事があってすぐには参加できなかったが、仕事を辞めて何か出来ないかと思っていた時に、住職から誘われて今では色んな活動に参加するようになりました」とお話くださいました。お寺とは、どんなイメージか分かりづらい所ですが、色んなきっかけが作れるとよいですね。

仏教婦人会

ダーナ募金：三万七千円

仏教婦人会の会員のみなさまのおかげで、今年のダーナ募金は三万七千円となりました。

この活動は、「慈悲の心で平和を」というテーマのもと、地元の松寿園・しょうせいえんなどに、また一部は、山口別院を通して本願寺で集計し各方面に寄付されています。詳しくは「浄土真宗仏教婦人会ダーナ活動」で検索すると、寄付額が出てきます。二十九年度の山口別院会計報告では以下のようになっています。

	項	決算額	予算額	対比※超過	説明	
1	ダーナ献金	3,699,430	3,830,000	130,570	九州北部豪雨義援金	552,430
					更生保護施設白光荘への協力	30,000
					ユニセフへの支援	300,000
					東日本大震災復興支援金	200,000
					仏教婦人会総連盟ダーナ献金	200,000
					福祉車両購入	1,410,000
					福祉用具（車いす）購入	1,007,000
2	事務費	8,884	40,000	31,116	振替手数料等	

募集！餅つきの準備

今度の降誕会の法座では、昼食にカレーを準備して、餅つきが行われます。そこで、前日の食材の準備と当日の配膳等をお手伝いしてくださるお方を募集しています。

新たな繋がりを 壮年会・婦人会 会員募集

旅行に行ったり温泉に行ったりするのも楽しいですが、お寺に関わることを今のうちから初めてみませんか？

壮年会では、リンゴ狩りやバス旅行を主催したり、グラウンドゴルフをしたり、境内の剪定では大きな木を切り倒したり、研修会や懇話会では、会員の皆さんと色んなお寺にお参りしてお話を聞いたりします。

婦人会では、ダーナ活動やご法座でのお手伝い、境内で収穫された果樹で何かを作ったり、お茶をしたりと様々です。

いつかお寺にはお参りしたいと思っているならば、どうぞ今年度からお参りください。いつもの違ったお寺の雰囲気、活気ある法座の様子などを一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

仏跡参拝⑬

○最後の説法

お釈迦様の晩年になります。インドの雨季は、外を歩けないくらいのどしゃぶりなので、お釈迦様一行は、雨季の期間は一定の場所に留まり、そこで修行をされます。そのことを安居（あんご）といいます。たくさんの人々に教えを説かれていたお釈迦様の名前は広く知れ渡り、安居も色んな場所で施しを受けながら活動ができました。

ある時、お釈迦様は安居に入るとすぐに、身体の具合が悪くなり、激しい痛みに襲われました。

しかし雨季が過ぎるころには病も癒え、お釈迦様は体調を戻されました。しかし、そんな様子を一番近くて見ていた阿難という弟子は大変心配そうな顔でお釈迦様をご覧になっていました。その事に気づいたお釈迦様は、自分が亡き後を心配する必要はないと阿難に対して説法をされました。「阿難よ、私の死後、この仏教教団がどうなるかを心配しているようだが、今まで私は、教団を指導しているとか、教団が私の指示を仰いでいるとか、そんなことは考えたことはない。私はもう八十歳になり、今日をやっと生きているようなものである。だから阿難よ、おまえたちは、自己を拠りどころにして、自己に帰依し、他人に帰依することなく住し、また真理を依りどころとして、真理に帰依し、他のものに帰依することなく住するなら、私がいなくても苦しみ悩みの世界を超えて、悟りを求める修行者と言えるのだ。阿難よ、修行者たる者はいつも心身に生ずる苦悩のもとを考え、その源となる欲や、迷いを取り除いておくべきだ。欲や迷いがなければ苦は生じず、真実を見る智慧が生じる。そのような自分こそ頼りとするのだ。正しい教えをよりどころにして、自分の信じる正しい道を歩むべきだ。そうすると最高の境地である寂静の境地（悟り）に身を置くことが出来る」

と、お釈迦様はお話になられました。体調の戻られたお釈迦様は最後の旅に出られます。

○残された教え

お釈迦様は、三十五歳の時に悟りをひらかれて、四十五年の遊行生活の中で沢山の方々に教えを説かれました。王様や貴族から町では恐れられる盗賊まで、お釈迦様は区別することなく教えを説かれました。本当の仏教の姿とは、現在の寺檀関係の門徒さんだけがお参りするようなお寺ではなく、誰でも気軽にお参り出来る観光寺院のような場所なのかもしれません。

けれども観光寺院のように建物だけ見て満足するのではなく、専明寺ではお参りしやすい環境を整えて、仏教の教えを聞き、生き方に仏教的要素を取り入れられる場となりたいものです。

畑通信（耕心録）

畑を作りませんか？

シェア畑では、「農業を通じて命の大切さや大地のめぐみを学ぶ」ことをコンセプトとして、活動しています。

あなたも、野菜づくりの楽しさを人に伝えてみませんか。家族・友人に野菜を差し上げると大変喜んで頂けます。仕事を引退した方などオススメです。

●最近植えたもの

- スナップエンドウ
- いちご・そらまめ
- じゃがいも・サンチェ
- ブロッコリー・チシャ
- きぬさや・アスパラガス

これは何の花でしょう？
何ができるでしょうか？
答えは裏表紙へ！

お寺のホームページでは、行事や日々の出来事、また外観のライトアップなど色々情報を発信しています。「下松　専明寺」で検索してね。

専明寺のココがお勧め

バイパスを眺められる山門

お寺に来て頂いた方なら一度は目にしたことがある「山門」。徳山方面に続くバイパスがまっすぐに見られます。時期が良いと、山門正面に沈む夕日を楽しむことが出来ます。

西に沈む夕日は、お浄土を連想させます。かつてお釈迦様の説かれた『仏説阿弥陀経』というお経には、西の彼方にお浄土があると説かれました。それは沈む夕日のその彼方先に、亡き方がいらっしゃる仏さまの世界があると説かれました。

現代では科学が発達して、地球は丸くて太陽を公転していると分かりますが、昔の人は分かりませんでした。

昔の人は、そんなこと知りません。しかし太陽が沈むとき、街の風景はどうなっているでしょうか。街全体が赤く染まり、空は茜色となります。金色とは言えませんが、一色に染まる様子はまるで自分と他人、区別することなく差別されることなく一色となり、清らかな苦しみ差別のないお浄土を連想させます。

一般的に山門とは、俗世間とお寺の清らかな境として使用されます。よく「葷酒山門に入るを許さず」くさいにおいのする野菜と、酒は、修行の妨げになるので、寺の中に持ち込んではならない、という意味です。しかし、浄土真宗では、お寺の境内が清らかで、世間とは違うとは申しません。むしろお寺であろうが、町の中であろうが、私たちの心は変わることがありません。

だからこそ、西に沈む夕日に譬えられたお浄土を願う生き方をお釈迦様は勧められました。

専明寺から見える夕日は一味違います。本堂にお参りした後に、沈む夕日をご覧になって、お浄土を連想してみてください。

質問箱

・お坊さんは一日何をしているの？

とてもみなさん気になる質問のようです。お寺によって活動は様々なので、若院の場合はどんな仕事をしているのかをお伝えしたいと思います。

まずはお寺の掃除です。みなさんがイメージされるように本堂・境内の掃除が仕事の占める割合では一番多いかと思います。

次に畑作業や境内整備です。これから夏野菜を植える時期になるので、大忙しです。夏には水やり、秋には剪定、冬には寒肥や夏には草抜きで手が回らなかった所を掃除しています。

次にホームページや勉強会の資料作り、この寺報を作ったりパソコンで事務作業をしています。最近は過去帳のデータ化と門徒名簿のデータ一元化をしたりしています。

次に山口別院や京都の本願寺で研修会や会議、その他にも下松エリアのお寺さん同士での交流や、壮年会の行事準備と参加があります。夏にはサマースクールがあるので、お盆参り以外でも色々しています。

最後に徳山中央病院での傾聴ボランティアがあるので、色んな方とお話する機会があります。色々ありますが、平日は結構お寺にいるので、お気軽に起しください。

仏教由来の言葉

「会うは別れ」

はじめより　会うは別れと　聞きながら
暁知らで　人を恋ひける　（藤原定家）

古来より現代に至るまで、この情念をうたったものは数多くあります。会うは別れの始まりとは知らない訳じゃないけれど、という切ない思いは今も昔も変わらない人間の感情です。

『法華経』には「愛別離苦、これ会者定離」や、『仏遺教経』には「会う者は必ず離るることあり、憂悩を抱くことなかれ」と表現されています。

「生者必滅　会者定離」といわれるように、生まれた者は必ず滅し、出会ったものは必ず離れなければならないという無常を表しています。

3月4月は卒業・入学・入社・転勤など人生の往来の多いシーズンです。人生のはかなさを悲観的に眺めるだけではなく、だからこそ、出会いや人間関係を大切にしていきたいものです。

初参式のすすめ

子どもと一緒に手を合わそう

「我が子には、幸せになってほしい」と、願う親は数多いことでしょう。しかし、幸せなときだけが人生ではありません。大きくなると、「辛い事」、「苦しい事」だってたくさんあります。思い通りにならない事の方が多いかもしれません。

であるならば、思い通りにならない中でも、本当の幸せを見つけられる力を養わなければなりません。本当に子どもの事を願うならば「どんな人生であろうと、しっかり歩んでいける人になってほしい」と思うことが大事ではないでしょうか。

仏教には、その教えがあります。

子どもが生まれて、初めてお寺にお参りする大切な儀式を「初参式」といいます。初参式には、家族そろって行う大切な儀式です。新しい命の歩みを、初参式から始めましょう。

手を合わせる家庭には、心豊かな子どもの心が育まれます。どうぞ初参式を初めての縁としてお参りください。三十分程の短い儀式となりますので、お寺までご連絡ください。

納骨堂の紹介

天候に左右されず、いつでもキレイにお参りできる納骨堂は非常に便利です。

- **墓じまいを検討の方**
- **墓地が荒れてきてお困りの方**
- **終活を考えておられる方**

バリアフリーなので、車椅子でもお参り出来ます。詳しくはご相談の上、ご見学ください。

●家族タイプ納骨堂
　１００万円

●夫婦タイプ納骨堂
　３０万円（骨壷が２つ入ります）

※本堂下の納骨堂は、管理費として
　年間８，０００円が必要になります。

●合祀墓
　（集合墓・グループ墓）
　１０万円

※納骨壇も夫婦タイプのロッカー式も残り少なくなりました。

護持会からのお知らせ

三月九日の春季彼岸会終了後、会館で定期役員会が開催され、三十年度護持会会計報告、三十一年度予算が審議され承認されました。

護持会では、ご門徒のみなさまからお金をお預かりして、お寺の維持管理がされています。本紙も伝道教化費の教化資料予算の中で発行されています。

この度は、支出の部より複合機（コピー機）購入により、予備費から支出があります。リースではなく、購入することで前回同様に十年以上使用できればと思います。勉強会や会計報告の印刷に使用します。

四月から、地区役員さんが法要案内等の配布物・護持費・墓地納骨堂冥加金（年会費）等を集めに伺いますので、よろしくお願いいたします。郵便での方は五月中旬までに振替用紙にてご納入の程お願いいたします。

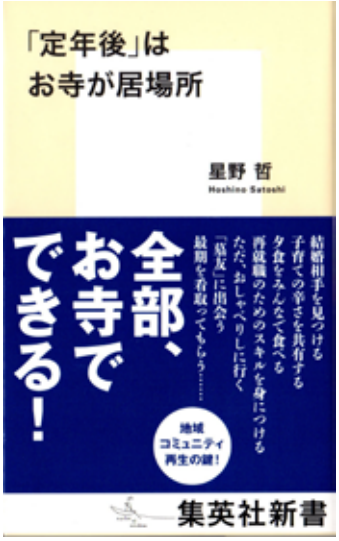
山本明子さんが生けてくれました。

本紹介

母であることのすべてがつまった絵本。親でいることの喜び、不安、苦しみ、寂しさをシンプルな言葉で語られる。米国中の母親を号泣させた話題のベストセラー。母親や、これから母になろうとしている女性、巣立とうとしている子どもたち、それぞれがそれぞれの読みかたをできて、それぞれの感動を味わえます。

著者：アリスマン・マギー
出版社：主婦の友社

お寺は、葬儀やお墓参りの場所、もしくは観光で訪れる場所といった印象がある。しかし近年、家でも会社でもない「居場所」を提供する場としてのお寺に注目が集まっている。地域コミュニティの核としての機能を論じる。



著者：星野 哲

編集後記（若院）

今年は花粉の飛散量が、集計以来２番目に多かった年のようです。花粉症に悩まされた人も多いのではないでしょうか。

私、若院もアレルギー体質なので、毎年花粉症の時には気をつけています。ひどい時にはお経が掠れて、息継ぎが大変になります。

しかし、今年はしっかりと薬を飲んだせいか、比較的大事には至らなかったので、花粉の量が多いと言われても全然気になりませんでした。

最近皮膚科にいってアレルギー検査をしてみると、杉花粉は大丈夫だったのですが、ひのき花粉に弱いようなので、本当の苦しみはこれからだと思い、先が心配になりました。

この度は、本紙を手に取りご覧頂きありがとうございます。若院が記事から構成等すべてを担当しています。

ラインはじめました！

専明寺のライン登録には、友だち追加の画面→友だち検索→電話番号にチェックを入れて、8334136671（お寺の電話番号）を入れて、登録して連絡ください。

答え：スナップエンドウ